



みき

三木町議会だより

NO.

120

平成19年7月20日発行

三木町議会 編集 議会広報編集委員会

〒七六一〇六九二 香川県木田郡三木町大字氷上三三〇

TEL087(891)3311

三木町HP <http://www.town.miki.lg.jp/>

ガンバレ ファイト!



6月定例議会

第1回臨時議会

議長・副議長を選出……………2
委員会構成など決定……………3

議案を審議

共有林を売却
意見書を可決……………5

一般質問

6人が登壇……………6

委員会レポート

ウェルサンピアさぬきの
売却決定……………12

桑井議長・谷畑副議長を選出

改選後初の臨時議会は、5月7日、8日の2日間で開かれた。

正副議長の選挙は投票となり、第34代議長に桑井明人氏、第35代副議長に谷畑健二氏を選出したほか、各委員会構成を決めた。

就任のご挨拶



桑井議長

この度、三木町議会第34代議長に就任いたしました。

いま地方自治を取り巻く状況は非常に厳しく香川県下5市38町であった自治体が現在8市9町とその形態が大きく様変わりいたしました。年々削減される地方交付税、少子高齢社会など激変する社会の対応により地方格差が広がっております。

行財政改革や、安全、安心、福祉、環境など自治体が直面する広範な課題に対し、住民の代表機関として自治体の最終意思決定を預かる議会の役割と責任は益々重要になってまいりました。

議員一人ひとりが、住民の代弁者として、その期待に応えるためにも、議会の

本来的機能を十分に発揮し、議会を活性化すると共に存在感のある議会運営が強く望まれていると思っています。こうした大切な時期の議長就任だけに、もとより浅学非才の私ではありますが、その責務の重大さを実感しながら議会活動に取り組んでいます。

三木町の将来像を住民と共に考え「この町に住んでよかった」と思えるような町づくりには、行政、議会、共に知恵を出し合い実現してまいりたいと思っております。

町民の皆さんには今まで以上のご指導と、ご協力を心よりお願い申し上げます。議長就任のご挨拶といたします。



谷畑副議長

先の統一地方選挙後、初めての議会において、議員各位のご推挙を賜り、副議長に就任することになりました。

身に余る光栄と存じますと共に、その職務の重大さを痛感している次第であります。

もとより微力ではあります。誠心誠意、桑井議長を補佐し、議会の円滑な運営に全力で取り組みたいと考えております。

どうか、皆様方の一層のご支援、ご指導、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。副議長就任のご挨拶といたします。

石田高校卒

当選6回

大字井上 64歳

木田高校卒

当選4回

大字氷上 65歳

議会の動き

- 〔4月〕
 - 2 議会広報編集委員会
 - 10 議会広報編集委員会
 - 13 議会広報編集委員会
 - 24 議会広報編集委員会
- 〔5月〕
 - 2 議員協議会
 - 7 第1回臨時議会
 - 8 第1回臨時議会
 - 24 教育民生常任委員会
 - 25 総務常任委員会
 - 28 建設経済常任委員会
- 〔6月〕
 - 4 下水道推進特別委員会
 - 6 議会運営委員会
 - 13 第2回定例議会開会
(議案の上程)
 - 14 広報編集委員会
総務常任委員会
教育民生常任委員会
建設経済常任委員会
本会議
(議案の質疑、一般質問)
 - 15 本会議(採決)
 - 20 本会議(採決)
全員協議会

○議長選挙結果

- 桑井 明人 8票
- 香西 茂知 6票
- 石井 定夫 3票
- 渡辺 達実 1票

○副議長選挙結果

- 谷畑 健二 11票
- 香西 義典 6票
- 松原 哲也 1票

常任委員会

◎ 委員長
○ 副委員長

総務
町有財産の管理、処
分に関する事項等を
調査します。

教育民生
教育、生活環境、保健、
福祉に関する事項等
を調査します。

建設経済
道路、上水道、農業
振興、土地改良事業に
関する事項等を調査
します。



松原 哲也



白井 正治



西丸 一明



谷畑 健二



○香西 俊之



◎原田 照治



渡辺 達実



三宅 貞夫



古市 嘉忠



桑井 明人



○筒井 米市



◎石井 定夫



富田 修司



香西 義典



古市 弘



溝渕 清美



○三木 和則



◎香西 茂知

特別委員会など

◎ 委員長
○ 副委員長

よろしく
お願いします。

下水道推進 特別委員会

◎香西 義典
○古市 嘉忠
溝渕 清美
西丸 一明
三宅 貞夫
白井 正治

議会運営委員会

◎香西 俊之
○筒井 米市
石井 定夫
原田 照治
香西 茂知
三木 和則

環境保全対策 特別委員会

◎渡辺 達実
○筒井 米市
古市 弘
谷畑 健二
香西 俊之
三木 和則

行財政改革推進 特別委員会

◎松原 哲也
○富田 修司
石井 定夫
原田 照治
桑井 明人
香西 茂知

議会推 査委員

古市 嘉忠

議会選 出委員

古市 弘



▲定例議会採決の様様

補正予算5億7,470万円余を追加
一般会計予算88億7,770万円余に

三木中学校体育館改築に、4億9140万円

平成19年第2回定例議会は、6月13日から20日までの8日間の会期で開会された。

初日は、各委員会調査報告、農業委員会業務報告、土地開発公社業務報告に続き、三木中学校屋内運動場改築工事請負契約を可決、さらには町土地開発公社の経営状況の報告など5件、また平成19年度の一般会計補正予算など4議案が上程され、うち3議案を各常任委員会へ付託した。

改選後初の一般質問では、6人が登壇し、少子化対策、福祉医療施策、湧水対策、また、議会活性化策など、町長の政治姿勢や、行政運営などについて話した。

最終日には、追加提案された町有地の売却についてなど4議案を可決、承認、そのほか上程された全議案を、各常任委員会や本会議場で慎重に審議し、原案どおり可決し閉会した。

人事

人権擁護委員に
酒井 高子氏を推薦

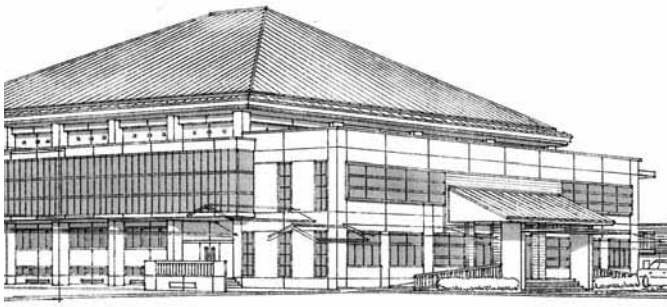


初就任
大字鹿庭(62歳)

満場一致
可決!

工事請負契約を締結

- 工 事 名 三木中学校屋内運動場改築工事
- 契約方法 一般競争入札
- 参加業者 5社・3共同企業体
- 契約金額 491,400,000円
- 契約の相手 谷口建設興業株式会社



▲完成予想図

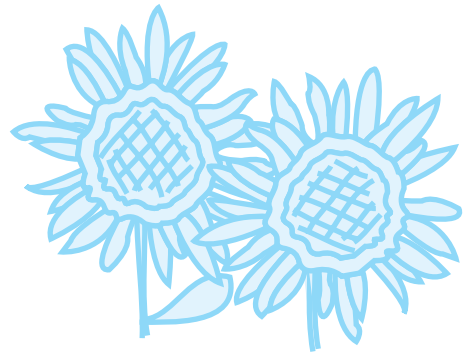
議員出欠表

(本会議のみ)

議員氏名	5/7	5/8	6/13	6/18	6/20
富田 修司	○	○	○	○	○
渡辺 達実	○	○	○	○	○
松原 哲也	○	○	○	○	○
三木 和則	○	○	○	○	○
香西 義典	○	○	○	○	○
白井 正治	○	○	○	○	○
三宅 貞夫	○	○	○	○	○
香西 俊之	○	○	○	○	○
古市 嘉忠	○	○	×	×	○
香西 茂知	○	○	○	○	○
西丸 一明	○	○	○	○	○
古市 弘	○	○	○	○	○
原田 照治	○	○	○	○	○
筒井 米市	○	○	○	○	○
溝渕 清美	○	○	○	○	○
石井 定夫	○	○	○	○	○
谷畑 健二	○	○	○	○	○
条井 明人	○	○	○	○	○

今期定例議会の傍聴者は、
延べ41人でした。

議案を審議



共有林を売却

- | | |
|----------|--|
| 1 処分する土地 | さぬき市前山字上葛野685番3ほか12筆
普通財産用地 84,828平方メートル
上記面積の内 持分 100分の45 |
| 2 処分の目的 | さぬき市残土処分場事業用地 |
| 3 売却相手 | さぬき市長 大山 茂樹 |
| 4 売却価格 | 39,981,000円 |

報酬を一律減額

非常勤の特別職の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正に伴い、投票立会人が、10700円、開票立会人及び、選挙立会人が8800円になる等の改正が行われた。

問 災害残土のみを捨てることだが、災害時および、許容を超える浸出水が流れた時の対処は？

答 総務課長

売却後の管理は、さぬき市に一任しており、万が一の事態においても、さぬき市の責任で対処していただく。

問 二股土地改良区との交渉が不完全のままであるようだが、未解決部分の、今後の十分な対応を望む。

答 総務課長

地方自治体が行う処分場なので、必ずしも同意は必要ないが、地元への説明責任は十分にある。その事を、機会がある度に、さぬき市へ要望を続けていく。

道路整備財源の確保・充実に関する意見書(抜粋)を賛成多数で可決

道路は、地域住民の日常生活や経済・社会活動を支える最も重要な役割を果たしている社会資本であり、その整備促進には極めて大きな期待が寄せられている。

災害時のライフラインの確保を図るための救急医療施設や福祉施設等へのアクセスとなる道路整備を重点的に推し進め、常に生活者の視点に立ち、利便性の向上、交通安全に資する道路づくりや豊かな暮らしを育むための地域の景観や環境の視点から、快適な道路空間づくりへの対応が求められている。

地方の道路整備に対する財源には多額の一般財源が必要であるので、道路特定財源の取り扱いについては、受益者負担という道路特定財源制度の趣旨を踏まえ、地方の道路整備の実情を考慮したうえで、慎重に検討する必要がある。

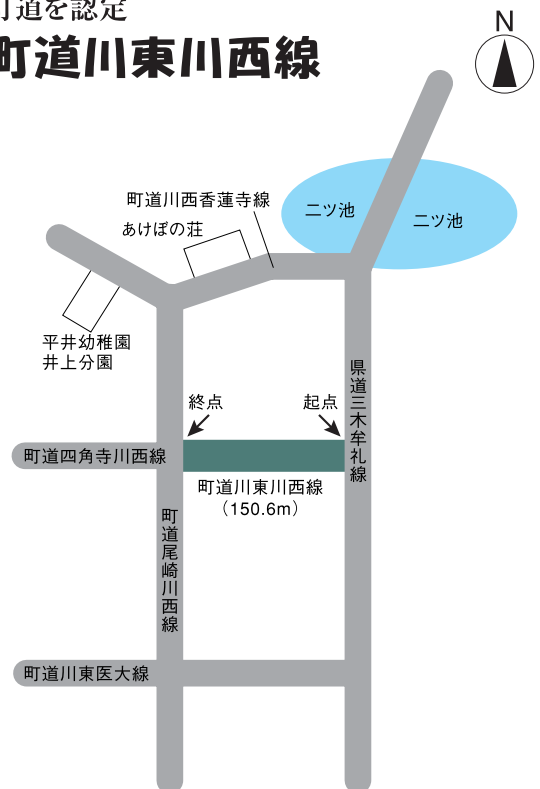
よって、国においては、こうした状況を踏まえ、地方における道路整備財源を充実するよう強く要望する。

平成19年6月20日

香川県木田郡三木町議会

■提出先 内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、国土交通大臣、
経済財政政策担当大臣、衆議院議長、参議院議長

町道を認定 町道川東川西線





原田照治 議員

質問 今後の福祉行政は

答 福祉サービスの充実に務める

町長 「小さくてもキラリと光るまち」三木町の、今後のまちづくりについて町長の抱負、決意を伺う。

町長

行財政改革に不転の決意で取り組むとともに三木町に住んで良かった、これからも住み続けたいと実感できる「夢とロマンと活力に満ちたまちづくり」に、全力を傾注していく。

今後の福祉サービスの拡充について町長の見解を伺う。

町長

「人にやさしい福祉のまちづくり」の実現を目指し、全職員が一丸となり、福祉サービスの充実に努めていく。

地域福祉計画の、最初の5年間で取り組む具体的な施策を伺う。

町長

重点施策として、中でも「地域支援ネットワークの構築」が急務である。

町長

また、子育て支援、生涯学習の拠点としての「ふれあい活動の場の充実」や、ユニバーサルデザインを導入するなどして、「公共施設、道路等のバリアフリー化」にも取り組み、障害者や高齢者にやさしいまちづくりを考えている。

今後の行政サービスのあり方について、所見を伺う。

町長

厳しい財政事情ではあるが、これまでのまちづくりを町民の皆さんと一緒に進めてきた。

これを基盤として今後の厳しい中にも誇れる町、三木町としてのまちづくりを進めていきたいと考えている。



▲子育て支援券交付式の模様

地方交付税の見通しについて伺う。

町長

今後一定の額までは下がるのではないが、心してこれに持ち堪えられるよう三木町として、準備をして体制を整えたい。

介護保険について

町長

コムスの不正問題について不安が広がっているが町の対応は。 対応については、国の指導に基づいて、心配はかけないように

努めていく。

介護予防に重点を置いた施策について、所見を伺う。

町長

これからのまちづくりは、住民全てが幸せで、生きがいのある楽しい日々を過ごせるように、予防介護などの福祉施策の充実をがんばっていききたい。

高齢者福祉、少子化も含め取り組む政治姿勢について伺う。

町長

少子化対策としては、今年4月から子育て支援券を交付し、子育てがしやすいようにし、地域の福祉行政全般にわたってきめ細かに、心の通う温かい行政をしていきたい。

一般質問



松原哲也 議員

質問 白山公園事業を大型児童公園としては

答

町内での整備は慎重にすべきと
考えている

少子化・晩産化が進む背景として、女性の就労機会の上昇、ライフスタイルの変化などで、家庭内で子育てに接する時間が減少している。休日など、親子や子どもからお年寄りまで、町内外の幅広い人たちが集まり、朝から晩まで楽しめる、体験型の遊び、親子のふれあいの場、大型児童公園施設建設を提案する。

町長

町内での整備は慎重にするべきと考えている。公測公園、太古の森、高仙山、地域農村公園などを活用してほしい。

白山公園事業の目的を、もう少し広い観点から拡大して、ただ桜を鑑賞できる公園にするのではなく、大型児童公園施設を念頭に進める事を望む。



▲バイパスから白山を望む

町長

町制50周年事業として、5年間で5千本、50種類の桜の植樹を計画している。

ボランティア活動として取り組んでいる。「公園をつくる会」の取組みに、敬意を表している。乱開発との指摘を受け、取組みを反省しながら事業を進め、現在2000本の植樹であり、引き続き四季折々の花が楽しめる山とする

そのため、登山道の整備も進めていく。

三木町における少子化問題に対する今後の取組み

長野県下條村は、中学校卒業まで子どもの医療費を無料化し、子育てする親に安心感を与えているが町長の見解は。

町長

三木町は現在、乳幼児医療費無料化制度を0歳から6歳まで1432人を対象に実施している。さらに7歳から15歳の実施となると、人口は2453人いる。現在の町財政の中では難しい。今年度より実施する「子育て支援券制度」で子育て支援をしていきたい。

高齢者の生きがいと健康づくりについて

高齢者のみなさんが、豊かな経験や知識・技術を生かし、積極的に社会活動を展開していくことができる社会「活力ある長寿社会の実現」である。高齢者の生きがいと健康づくりへの取組みはどのようなか。

町長

介護予防事業として、12会場、153回、参

加者延べ2500人「さんさん会」の取組みがある。筋力トレーニングや体操、ゲームなどの予防対策を講じている。病氣、寝たきり防止に役立っている。

高齢者手帳の発行を

高齢者がスポーツ、社会・文化活動に積極的に参加し、健康維持の促進とコミュニケーションを図れる支援制度として、各種施設や催しを無料または割引で利用できる手帳などの発行を検討してはどうか。

町長

県の「長寿手帳」を65歳以上の希望者に発行している。県立施設の割引や「あけぼの荘」「平木コミュニティセンター」の利用割引を実施している。



香西茂知 議員

質問 渇水対策について

答 節水をお願いします

我が町を含め、香川・徳島県内の多くの市町村が、早明浦ダムからの供給を受けている。貯水率0パーセントという危機的状況も危ぶまれる中、三木町の対応は。

町長

まとまった雨は、町民はじめ、多くの人の願いである。県と同じく5月24日に、当町に渇水対策本部を設置し、そこで本部会等を開き対策を検討している。

通常時、多い日で日量9000トン余り使用しているが、7000トン程度に抑えるように、町民に節水をお願いしている。

また、町民からの善意の井戸をいただくなど、自己水源の確保にも努力しており、日量4500トンの自己水量が現在、確保できている。

今後も、大自然を相手に未知な所ではあるが、住民に不安を

与えないよう、供給努力に努めたい。

農業用水を飲料水へ転用する等、あらゆる方向での検討を望む。

町長

ため池の水は、農家の方にとつて大切であり、滅菌作業にも多額の費用がかかるため、深井戸での対応を進めていきたい。

学校の対応は。

教育長

町の渇水対策本部と十分に連携を取りながら、段階的・計画的に節水に取り組んでいる。

第2次取水制限で校内水道蛇口を半分に制限し、先日の第3次取水制限からは、町内全校のプールを使用中止とした。



▲待機中の給水車

また、給食においても食材の内容の工夫や皿数を減らす等、第4次取水制限に向けて、水の使用を順次控えるよう努力している。

第4次取水制限以降では、完全に簡易給食へ移行する。

コミュニティバスについて

当初に比べ、最近は何人か乗っているのを見かける。利用者の喜びの声をよく聞くが、コミュニティバスの人件費を含めた総額経費と利用者数を問う。

また、今は試験運行中と聞くが、今後の対応は。

町長

平成18年度における事業費は1000万円余である。運賃収入は110万円余、国からの補助金が390万円余で、収支は500

万円余の赤字となっている。

また、年間利用者数は、11330人で、一人当たりにかかる経費は906円である。

このように町の負担は大きい。収支目的でなく、町民の生活交通手段として、より一層の利用を期待している。

バス停の新設、運行コース延長等の要望がある。今後、住民の手足として、十分な対応を願う。

町長

交通事情等の問題から山間部へのコース延長は難しい。安全で安心して乗れるバスをモットーに、福祉バスとしての運行を続けたい。

一般質問



渡辺達実 議員

質問 負担増に対し町独自の減免制度を

答 減免の取り扱いは慎重に

信頼を回復せよ

12月定例議会、3月定例議会等で、町民は町政に対する不安、町長、議員に対する信頼について揺らいでいると思う。

夢が語れる町にふさわしい未来を切り開いていくために、町長の決意をお聞かせ願う。

町長

町民に誇れる、そして三木町民であるという誇れる町づくりを、責任をもってしていきたい。

増税に対抗して

6月より、定率減税の廃止により住民税が増税となるなど、高齢者が多く住む三木町において、住民の負担増に対して町独自の減額免除制度を作つてほしい。また現行制度の周知徹底を願う。

町長

本町における減免制度であるが、主に台風による災害により被災した住民の方を対象に行っている。減免の取り扱いについては慎重にしている。制度改正や内容の周知については、広報紙やホームページなどで十分周知が行えるよう努力したい。

人と自然にやさしく

「三木町地域福祉計画」が策定された。町民の10パーセントの人たちが介護支援が必要となっている。こうした人たちが安心してくらしたいけるよう努めて欲しい。

町長

今後、少子高齢化が進む中で、障害を持つ方々、介護を必要とする方々はもちろんのこと、子どもから高齢者まで、すべての住民の皆さんが、住み慣れた我が家、住み慣れたまちで、家族や近隣の人との絆を保ち、共に支えあいながら、安心して暮らせる町を作つていくことを目指す。

紙おむつの支給は 宅配で

高齢者への紙おむつの支給は大変助かっている。他町では行政から何らかの方法で宅配している所があると聞く。本町でも宅配してあげられないか。

町長

受け取りに来ることが困難な方には担当ケアマネージャーや、ホームヘルパーに配達を依頼したり便宜を図っている。今後尚一層、きめ細やかなサービスに努める。

学童保育制度の 充実を

学童保育の充実は重要と考える。定員を

増やし希望者全員が入れるよう望む。

教育長

本町の児童クラブは現在1年生から3年生までの受け入れで、待機児童はいない。

障害児への配慮を

児童クラブで障害のある子供が、小学校卒業まで利用できないか。また18時までの預りを更に延長できないか。

教育長

法的に、また経費面等諸般の事情から、现阶段では難しい。

医療費の無料化を

子どもの医療費を中学卒業するまで無料化できないか。

町長

三木町の実情と、財政状況を考えた中で検討したい。

大変不便している

コミュニティバスを山間部へ運行できないか。

町長

安全運転が第一である。道路事情等によって厳しい地域もある。まず道路をよくしていきたい。それからである。

障害者控除制度の 充実を図れ

介護保険の認定を受けていて、障害者手帳を持たない方の軽減制度がある。三木町に該当者はいるか。またその周知徹底を願う。

町長

平成16年度1件、17年度3件、18年度3件の申請実績がある。より一層の住民への周知徹底を図る。



西丸一明 議員

質問 放流同意書の添付義務は違法である

答

合併浄化槽の補助金申請をするなら必要

厚生労働省の通達では、合併浄化槽設置の届出の際に、放流同意書の添付は違反なので、改善するようになつていますが。

上下水道課長

一方で水路管理者と協議するようにとの規則もあるので、あくまでも水利関係者との協議を進めてもらいたい。

法外な放流料の要求を黙認するのは

水路の維持管理のために、社会通念上の範囲内の放流料は、ある程度理解できるが、町内の実態を把握しているか。

町長

町内でもバラつきがあるので、10数年前に放流料の統一ができていないかと交渉したが、長い水利慣行のため難しい問題であり、今日

に至っている。

なぜ同意書添付を廃止できないのか

国、県、町が補助金を出して推進をしている合併浄化槽を設置するのに、法外な放流料を払わなければならないのか。行政は町民のために、もっと行政指導をすべきでないか。

町長

町としての優先順位は、公共下水道、次に農業集落排水事業の順で進めており、合併浄化槽はなるべく待つてもらいたい。町の進める下水道に従っていただきたい。

町行政は冷たい

個人が負担してまで設置する合併浄化槽に「補助金が必要

なら、水利組合の要求額を払ってでも、同意書「協議済書」に押印をもらえ」というのは、何が「ぬくもりのある行政」と言えるか。

町長

補助金を出す前提として、地域で十分な話し合いをしていただき、お互いが納得できる範囲で地元として解決してもらいたい。



▲放流に協議は必要か？

その他の質問

- 議会のインターネット中継について
- 子ども議会などの模擬議会の開催
- 土、日や夜間議会の開催について
- 議会開催日の周知について

町長

実施している他町に聞いたが、このだれを呼ぶのか、職員の手当支給の費用などを考えると、効果は乏しい。



香西義典 議員

質問 コミュニティバス運行の実態は

答 年々利用者は増加している

平成17年11月から試験運行しているが、利用状況はどのようになっているか。

政策情報課長

1日のバス利用者は、昨年度は32人、本年度は約47人となっている。

敬老会にコミュニティバスを利用しては。

健康福祉課長

南部地区は町有車

で送迎しているが、北部はしていない。

いずれにしても、コミュニティバスを利用することは、物理的に無理である。

乗り合いタクシーの検討を

検討を

同一方向者の相乗りや割引料金などを設定すれば、利用者にとって便利になると思うが。

町民の意見を聞く場を設けてはどうか

政策情報課長
高松市の場合、山田地区では実行委員会がタクシー会社に委託していると聞いている。

コミュニティバスの利便性の向上や存続などについて、広く町民の声を聞く組織を作ってはどうか。

政策情報課長

関係機関との調整も必要なので、今後の検討課題としたい。

少子化の現状と対策について

若者や子育て世代が夢を持てるような子育て支援が必要と思うが。

町長

今までの施策は間違っていないと思っている。

自主防災組織の実態は

東南海・南海地震は、いずればやってくる。どのような対策をしているのか。

町長

平成16年に大災害に見舞われた。

地震は予測がつかないので、日頃の備えが大事だ。

自主防災の組織率は約70パーセントとなっている。

防災ラジオの普及や、防災訓練も実施した。

やはり、地域でお互い助け合うという協同の精神が大切であり、自主防災組織の結成の充実をしていきたい。

町長

避難場所となる学校施設の耐震診断を優先的に実施している。三木中学校体育館も建て直しするし、自主防災組織の充実を図っている。

町長

今までの施策は間違っていないと思っている。



▲利用増が望まれるコミュニティバス

香川をくまなくレポート

総務

ウエルサンピアの売却決定

問 所有する健康保険福祉施設整理機構が、売却するために一般競争入札をすることになったが、どのような条件か。

答 副町長
7月24日に入札を実施し、10月31日に引渡する予定なので、業者による営業は、11月1日からになるのでは。

答 副町長
整理機構の入札案件の中に、スケートリンク

問 現在の機能を維持継続してもらえるのか。

答 副町長
町が経営に口を出すと良くない、との指導を受けて、第三セクター方式をあきらめることにした。その代わり固定資産税を1年毎に減免措置すること

問 町民の要望が届くような協議の場はないのか。

答 副町長

第三セクター方式は断念

おそらく、こちらの要望を聞き入れてくれるのではないかと。担当課より、平成19年度主要事業計画について説明があった。主な質疑の内容は、次のとおりである。

建設経済

とで施設を現状維持するように、訴えていきたい。

このほかに、防災ラジオの配布状況、洪水ハザードマップの配布、コミュニティバスの利用状況などについて、担当課から報告があった。

香川用水への依存率を下げよ

問 早明浦ダムの貯水率が大幅に低下し、水不足が今年も懸念される。また未給水地区も町南部にある。今後の源水確保に努められたい。
その為に小川下池の活用は可能か。

答 上下水道課長

現在小川下池は、国営農地防災事業で改修している。現段階ではコメントできないが、源水確保には十分努力したい。



緊急井戸掘工事

バスストップの現状は

問 今後利用者数が増えた場合、増設は考えているのか。

答 町長

近くのバスストップなど、いろいろな状況から大幅に増えることは予測される。特に必要となれば、北側に第2駐車場を考えたい。

問 一週間以上駐車しているケースが見受けられるが、長期駐車の場合の対応は。

答 町長

高松などでは一昼夜、二昼夜までは無料とし、それを越える場合は有料としているようだが、いずれは考えなければならぬと思う。
国から補助金を頂いているので、その時には国と相談しなければならない。

16回目となる獅子舞フェスタ

問 町民からマンネリとの指摘がある。何回行っても毎回同じではないか。

答 産業振興課長

すべての獅子連を紹介するのに相当な時間を要する。その点でマンネリ化を指摘されているのだと思う。まだ当日まで時間があるので工夫をしていきたい。

問 夜間の開催、また池もあり遅くなると青少年にとって危険ではないか。

答 産業振興課長

獅子連の方々が仕事に行っていることや、夜間スポットライトを当ててゆたんを浮か上げらせる狙いがある。ご理解いただきたい。

元気なグループ紹介

私たち、「古文書学習会」の紹介をします

古文書関係の二つのクラブがある。

昭和五九年に何時の日か町内で古文書が発掘された場合に備えて、読解力を備えた会員を育成する必要があるとの考えで、前会長の細川幸雄先生の発案で、指導者に千葉幸伸先生を迎えて以来、会員の入退はあったが、現在まで継続しているシニアクラス。

現在会員数は10名。鰐河神社棟札を始め、応神寺文書常光寺文書・奥山北岡家文書などを解読し、現在は長宗我部元親の伝記とも言える「土佐物語」全二十巻の第十六巻を読解中である。設立当初からの継続会員は「小路仲子女史」只独りだが、平均年齢七十歳にしては、活気に溢れて月1、2回程で継続している。会員の高齢化に備えて、後継者育成を目的として、平成十三年以来、古文書入門編を公開

講座として、不肖桑村が指導者として開講。ある程度読解力がついた時点でシニアに編入。最初は物珍しさからか数名の受講者があるが、程度が上がるにつれて中途退会があり、その改善に腐心する。

歴史と字そのものに歓心のある人は長続きしているが、予定のコース終了後、生徒諸君の希望もあって現在も続いている。添付の写真は古文書学習会の有志で、長宗我部元親関連の古蹟を尋ねた時のもので、千葉先生の解説で常の研修とはひと味違った研修になり、全員楽しみなが勉強出来た。またの機会を望む声が多いが、実行の機会に恵まれないでいる。もう一葉は先日文化サロンの学習風景である。



三木町文化財保護協会
会長 桑村 利男

継続者が少ないのは学習方法に問題がありはしないかと考えて、学習方法を大学並みのゼミ形式に変更し、懇切丁寧をモットウに、まず候文の読み方から始め、万葉かな・漢文の返り点などを丁寧に解説。基礎を固めて後、



議会広報編集委員会



委員長	三木和則
副委員長	松原哲也
委員	谷畑健二
委員	西丸一明
委員	三宅貞夫
委員	渡辺達実
委員	富田修司

お気軽に議会を傍聴しませんか

本会議の傍聴人の定員は、30人となっていますが、当日の午前8時30分まで傍聴希望者が30人を超える場合は、抽選を行います。

次の定例議会は9月中旬の予定です。

編集を終えて

4月30日に心新たにスタートした18名の議員が第1回臨時議会に出席した。定数が2名減ったということでの責任の重さを感じてであろうか、不安気な新人をはじめ全員が緊張気味だったように思う。▼またまた水不足が叫ばれている。お天とうさまのことは言え、何とかならぬものかとつくづく思う。先日も住民の方と水不足について話をした。その最後に「それでも水は出るんやろ」のひとこと。もっと危機感を持つとう。自分のために、みんなのために。▼7名の新メンバーによる初めての「議会だより」いかがでした？ 委員一丸となり、分かりやすく、正確な内容をモットーにがんばりますので、よろしくお願ひします。

(K・M)